

～人とのふれあいにあふれた生活のまち～ 変わることはない健康と安心を届ける“新・蕨市立病院”を実現します

『蕨市民の求める新病院への理解』

**1 蕨市の特性から求められる実現すべき新病院**

- ① 日本一人口密度が高い市 (貴重な面積の有効活用・混雑回避)
- ② 将来2050年の医療需要の増加 (入院27%増、外来7%増)
- ③ 便利で交流が豊かな生活のまち

**2 日本の医療が直面する課題から実現すべき新病院**

- ① 医療従事者不足、働き方改革
- ② 患者の超高齢化、重症化
- ③ 技術革新への対応 (医療DX・ICT・ロボット等)
- ④ 建設コスト・プライスの高騰

**新・蕨市立病院の『めざす病院像』**

- 医療機能を自由に計画できる広大な面積を確保し、明るく、わかりやすく混雑の無い新病院
- 将来の医療需要の増加と変化に柔軟に対応し、安心の医療を提供する新病院

- 限られたスタッフで最大限の効率を生み出し、見通しが良く、患者を見守りやすい新病院
- シンプルな建物形状で機能的かつコンパクトな新病院



Warabi-Design 蕨市のアイデンティティが詰まった双子織のストライプラインを建築全体で創出 優雅な織物がたおやかにめぐりあがる様相は市民の集いを生み出します

めざす病院像と共に「質実剛健」かつ、将来の医療需要に備えた「しなやかさ」を実現する4つのコンセプト

**01 強く・しなやかで・無駄のない「新病院の骨格」**

『計画面積の最大化と拡張面積の整備』

- 自由な病院の計画を実現する広大なフリースペースと、将来に対応するフューチャースペースを完備

**02 患者がわかりやすく広くて明るい「わらびモール」**

『中央のわらびモール』

- ゆとりある外来が院内の混雑を緩和
- ふれあい広場につながる緑にあふれた環境

**03 見守りやすくコンパクトな「オープンステーション病棟」**

『中央のオープンステーション』

- 病棟全体の見通しを徹底し、中央のオープンステーションから全病室へ迅速なケアを実現

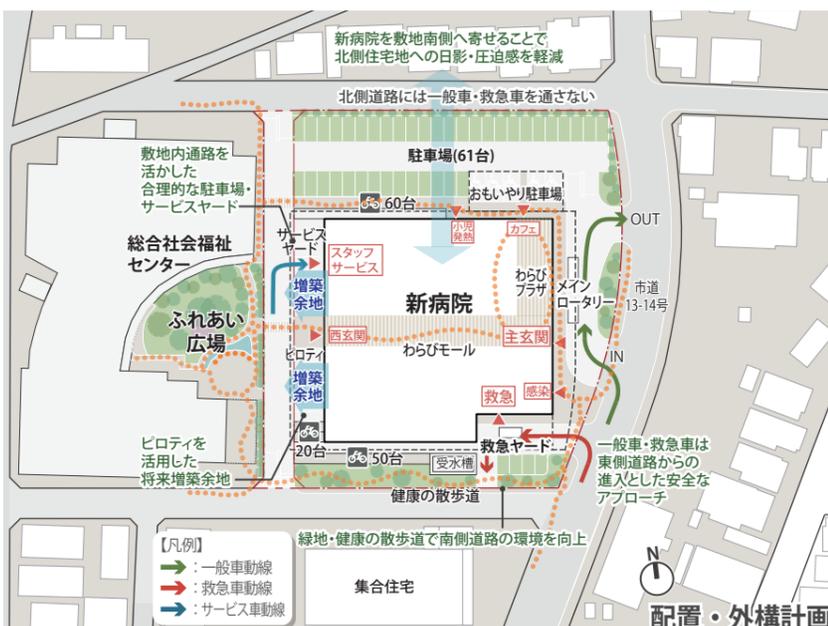
**04 ハイクオリティ・ローコストの両立を追求**

『シンプル＆コンパクト』

- 合理的な形状でバランスが良く無駄のない建物計画
- ローコストを実現し建築の質を守る

蕨の歴史・文化を継承し 生活のまちと共存する “やさしい病院” をつくります

- ① 周辺環境に配慮し安全な車両アプローチを計画します。
- ② “生活のまち”と共存する“やさしい病院”とします。
- ③ 蕨市のまちなみ・歴史・文化を継承します。



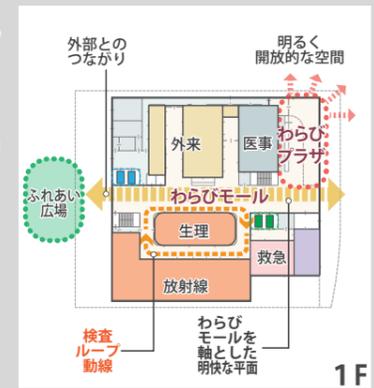
特に重視する設計上の配慮事項

- コストコントロール** 最新のコストとプライスの動向を注視しながら概算工事費を算出します。
- コスト削減** 建物形状のコンパクト化や仕様の標準化による無駄を省いたローコスト設計とします。
- 省エネ** 蕨市の気候・風土に適したエコ・デザインとします。
- LCC** イニシャル・ランニングコストのベストバランスの追及と各部門のエネルギー消費特性を踏まえた省エネ計画とします。
- 合意形成** 「対話の設計」を重視した円滑な合意形成によるスケジュール管理とします。
- 感染** 万全の感染症対策・安心のクリーンホスピタルとします。
- 災害** 市民の命と医療機能を守る骨太の災害対策を行います。

無駄のないコンパクトな計画で動線を短縮し 合理的かつ効率的な病院運営を実現します

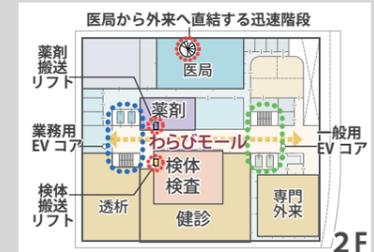
1F “わらびモール”を軸とした外来・救急・検査・供給のフロア

- ・わらびモールを軸に一般用EV・業務用EVを機能的に配置し各診療エリアを合理的にレイアウトした明快な平面計画とします。
- ・外来患者・救急・感染・スタッフの各動線を機能的に分離します。
- ・外部に面した開放的な“わらびプラザ”や、ふれあい広場の緑が見える“わらびモール”など外部との繋がりを活かし、実際の広さよりも広く感じることが出来る空間づくりを行います。



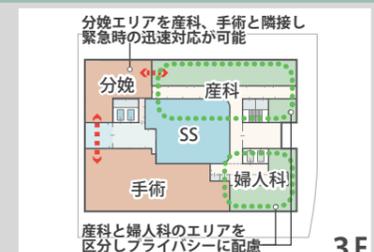
2F 健診・専門外来・透析・管理のフロア

- ・1Fと同様にわらびモールを軸に各部門(健診・専門外来・透析・管理)を効率的に配置した明快な計画とします。
- ・2F 医局と1F 外来をつなぐ迅速階段や、検体リフト、薬剤リフトなど上下階を繋ぐ機能的な縦動線を構築します。



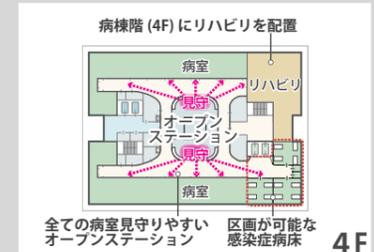
3F 産婦人科病棟25床と手術のフロア

- ・産科と婦人科のエリアを明確に区分し入院患者のプライバシーに配慮します。
- ・感染症患者に対応する陽陰圧切替手術室、ロボット対応手術室、パイオクリン手術室等、機能的で将来変化にも対応できる手術エリアとします。



4F 一般病棟52床とリハビリのフロア

- ・利用患者の多い病棟からのリハビリの利用に配慮し、一般病棟と同一フロアにリハビリ部門を配置。
- ・感染症拡大時、病棟の一部を区画し、感染症対応病床として運用可能な建築・設備を整備します。



5F 一般病棟53床のフロア

- 病室計画**
- ・病室のベッドサイドはゆとりあるケアスペースを確保します。
  - ・個室のトイレは窓側配置とし、見守りがしやすく、ベッド出入れが容易な計画とします。

